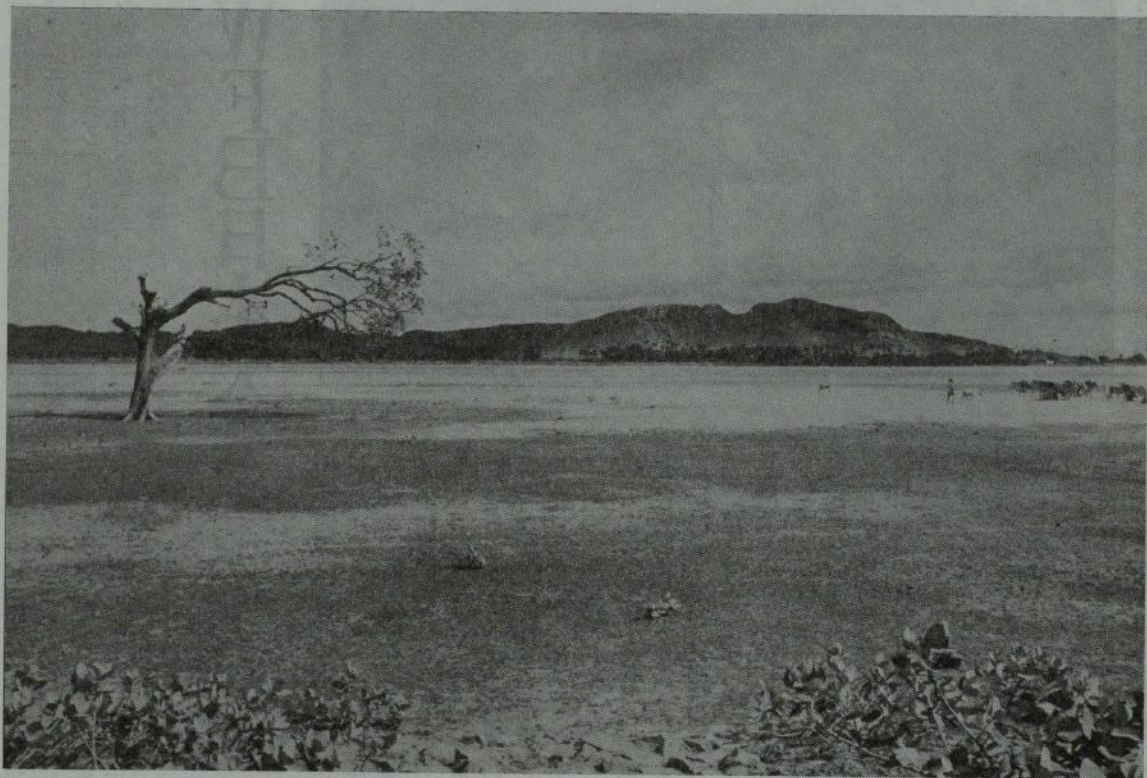


全仏

NO. 233

11 / 52



仏跡シリーズ ④ <尼蓮禪河>

ブダガヤ郊外にある尼蓮禪河は仏陀の古行地といわれているが、冬の河原には水もなく荒涼たる風景をみせている。(カメラ・松本栄一)

財団法人 全日本仏教会

第25回全日本仏教徒会議

盛大に埼玉大会

さわやかな秋空の十月七日、第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会は、埼玉県浦和市の埼玉会館を会場に、『仏教を現代に生かそう』—いのちを大切に—のスローガンのもと、全日本仏教会、埼玉県仏教会の主催により開かれた。大会には全国

より一千七百余名が参集し、四部会ならびに宗派代表者懇談会とにわかれ、それぞれの提出議案にそって仏教を現代に生かし、混迷と不安の時代に指針をあたえるべき討議が熱心に展開され、近年にない盛況な大会であった。

WFFB日本大会へ総力を

埼玉会館裏の玉蔵院に集合し最終点検をする地元埼玉県仏教会の大会にかける意気込みと、浦和市内の道路に林立する大会開催の看板は、弥が上にも大会を盛り上げる。午前九時の受付には県内外からの参加者が押しかけ、開会式典のおこなわれる大ホールはたちまち埋めつくされてしまった。

式典

満席の大ホールにて開式。江連俊則師（大会総務部長・埼玉）の司会により、まず柳丁堅師（大会事務局長・埼玉）が開会を宣言。浦和市仏婦コーラス部の四弘誓願の流れるなかを、岩崎鳳栄師（大会副会長・埼玉）に奉持された大会旗が入場、献香・献華のあと、埼玉県仏・大島見道会長の導師で三畑依文。戦災死者第三十三回忌の黙禱のあと、大谷光暢大会総裁（全日本仏教会長）が式辞。つづいて田辺哲雄全仏理事長、大島見道大会

長が挨拶。畑和埼玉県知事の歓迎のことばのあと、来賓としてパイヨン・チュテイクル駐日タイ大使、松永光衆院議員、中川健吉浦和市長が祝辞をのべ、再びコーラス部の仏教徒の歌「ああこのよるこ

び」で式を閉じる。

記念講演

東大名誉教授・花山信勝先生（全日本仏教会副会長）が「仏教徒への提言」と題して、仏教徒それぞれが世界の幸福のために、平和のために、その具体的方策を考え、仏教を現代に生かそうという自覚をもつようにと明示、四十分にとわって記念講演を行ない万場の拍手を得た。

総会

滝真澄全仏組織部長の司会。加藤海晃全仏総務局長の開会のことばのあと、前年度開催の三重県仏教会に感謝状の贈呈があり、全仏・望月日滋副会長（日蓮宗管長）より、三重県仏・常磐井堯棋会長（真宗高田派法主）に手渡された。鱒屋正浩仮議長（全仏事務総長）による議長団の選出とすすみ、稲岡覚順師（浄土宗宗務総長）、熊野竜夫師（豊山派宗務総長）、貝山宣泰師（神奈川県仏会長）、大島見道師（埼玉県仏会長）、山本杉氏（全日仏婦理事長）が議長団席に着席し議事に入った。竜山哲成全仏組織局長が大会幹事紹介、議事運営規則説明、議案上程、日程説明をおこない、鱒屋事務総長が全仏事務報告、麻布照海WFFB日本大会事務局総局長が第十二回WFFB日本大会の事務報告をして総会を終る。

部会

部会は次のテーマにより、各提出された議案（別掲）にそって討議された。
第一部会（実践）「仏教を現代に生かす具体的方策」——小ホール——
第二部会（檀信徒）「日常生活に仏教

開かれた埼玉大会。式辞を述べる大谷光暢大会総裁



を生かす方策」

——大ホール——

第三部会(婦人)「婦人の生活に仏教を生かす方策」——七階A会議室——

第四部会(青年)「青年の生活に仏教を生かす具体的方策」——七階B会議室——

宗派代表者懇談会——二階レストラン——

総会

部会終了後ひきつづいて大ホールにて総会を開き、開会の辞、議長挨拶のあと議事に入り、まず各部会の報告が、白川良純師(第一部会)、板橋宥成師(第二部会)、山本杉氏(第三部会)、平原隆秀師(第四部会)よりなされ、それぞれ報告どおりに決議された。次に宗派代表者懇談会と、前日の県仏代表者会議の報告が、麻布照海師と貝山宣泰師よりなされた。宣言決議文(別掲)の発表が摩尼

清之委員長よりあり拍手多数で承認のあと、桜井大乗師(大会幹事長)の開会の辞で総会を終えた。

閉会式

閉会式は大鳥見道大会長、田辺哲崖全仏理事長の挨拶につづき、罇淵事務総長より次期開催地の発表があり、第二十六回全日本仏教徒会議は茨城県と決定し、万場の拍手の中を、埼玉県仏・大島会長より、茨城県仏・大越孝仁会長へ大会仏旗が伝達され、大越会長が次期開催地を代表して挨拶した。最後に、真言宗智山派美善良順管長の発声で万歳三唱、安藤義祐全仏事務次長の閉会の辞をもって、第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会のすべての行事を盛況裡に終了した。

第一部会

部長 白川良純
副部長 鈴木深確
助言者 松海弘道
一号議案「都道府県仏単位における仏教会の活動をより活発にし、全一仏教運動を進めよう」
提案団体 埼玉県仏教会
提案説明者 吉井浄仙

次期開催地は茨城

54年に開かれる

全日本仏教徒会議の次期開催地は、茨城県仏教会(大越孝仁会長)の担当で開催することが決定した。埼玉大会閉会式

全一仏教をより推進するため各寺院は横の連携をとり合い、幅広い活動をすべきであるという意見統一で本案了承。
二号議案「被爆者救援と核兵器完全禁止のための課題にとりくもう」

提案団体 近代仏教研究会

提案説明者 壬生照順

被爆者援護、核兵器禁止などについて具体的に取組むよう全仏に要望すること



熱心に討議が続く第一部会

の席上で事務総長より発表され、大会旗が埼玉より茨城へ伝達された。
なお、第二十六回全日本仏教徒会議茨城大会は、明年WFB日本大会が開催されるので、昭和五十四年に開かれることになる。

で了承。

三号議案「なやみこと相談所の開設と命を大切にす運動の推進」

提案団体 群馬県仏教連合会

提案説明者 竹市文成

一般大衆の悩みに応えるべき方策を全仏にて考えることで採択。

第二部会



講演する宝井馬琴師匠

一号議案「おかげさま運動を私たちの手で」

提案団体 臨済宗妙心寺派

提案説明者 藤井禅郁

合掌・感謝の気持をもつよう広く社会に働きかけることで了承し採択。

二号議案「われら檀信徒は仏法の精神に基づき、仏陀の教えを生活に生かすための努力をしよう」

提案団体 埼玉県仏教会

提案説明者 佐野芳太郎

次期開催地の茨城へ大会旗の伝達



昭和52年11月1日

檀信徒は進んで聞法求道につとめ、仏陀の教えを生活に生かすべく、檀信徒の組織を強化しようということで採択。
○議事に入る前に、調談の宝井馬琴氏が「わが信仰」と題して、信仰体験を十分に亘って語り感動を与えた。

第三部会



仏教婦人の役割を討議する第三部会

一号議案「婦人として仏教の本義に生きよう」

提案団体 全日本仏教婦人連盟

提案説明者 山本 杉

新しい時代に仏法を生かすべく、婦人が大きな役割を果そうということで採択
二号議案「仏教徒は卒先して生命尊重の運動をおこそう」

提案団体 埼玉県仏教会

提案説明者 寿原郁子

生命を大切にしようとの提案のあと、「各寺に幼稚園を設置しよう」「ボランティア活動を積極的にこなそう」などの意見が多く出され、仏教婦人としてのこれらを実践しようということで採択。

第四部会

一号議案「寺院を青少年の研修道場として開放し、コミュニケーションの場として寺を現代に生かそう」

提案団体 全日本仏教青年会

提案説明者 大越孝一（茨城仏青）

寺は儀式だけでなく、年輩者だけのものではなく、若者の集まれる場として仏教を理解させていくことで採択。

二号議案「寺院行事を見直し、新しい教化のあり方を考え、青少年が喜んで参



熱気あふれる青年部会

加てできる行事の実践をしよう」

提案団体 全日本仏教青年会

提案説明者 上村正剛（智山仏青）

花まつりなど寺院行事の中で、修養会などを行い、青少年教化活動を全国的に広めようということで了承。

宗派代表者懇談会



2Fのレストランを会場に開かれた宗派代表者懇談会は、各宗派の管長・宗務総長等が出席、座長に浄土宗・稲岡総長を選出して、自由な話し合いを行った。

望月副会長、田辺理事長があいさつのあと懇談にいきり、WFB大会に質問が集中したので、麻布総局長が準備・日程・募財等について説明をした。つづいて「仏教を現代に生かそう」の埼玉大会テーマにそって、寺門開放、実践活動を話し合った。

出席者（順不同敬称略）

望月 日滋 全仏副会長 日蓮宗

花山 信勝 全仏副会長

田辺 哲雄 全仏理事長 曹洞宗

藤田 慈善 天台宗

岩田 教順 天台眞盛宗

四宮 正音 孝道教団

長谷川 豊信 念法眞教

宮城 泰年 本山修験宗

北川 智城 高野山眞言宗

芙蓉 良順 眞言宗智山派

熊野 竜夫 豊山派

和田 仁雅 御室派

岩城 秀雄 醍醐派

稲岡 覚順 浄土宗

高谷 正道 浄土宗西山禅林寺派

守中 隆璋 西山浄土宗

堀 定雄 浄土眞宗本願寺派

常磐井 稟祺 眞宗高田派

入野 広宣 〃

木辺 宣慈 〃 木辺派

千坂 精道 臨済宗妙心寺派

小林 栄雄 日蓮宗

土持 良栄 頭本法華宗

西村 日地 本門仏立宗

永井 日揮 本門法華宗

山下 通雄 〃

鱒淵 正浩 全仏事務総長

麻布 照海 WFB事務総局長

大島 見道 埼玉大会大会長

柳 了堅 〃 事務局長

河野 亮永 〃 事務次長

〔写真〕2Fのレストランで開かれた宗派代表者懇談会

日本大会の成功を期す

決議

- 一、われわれは、来るべき時代においても世界の苦悩を救う指導原理は、仏教を以てほかにないと確信する。
- 一、われわれは、仏教のもつ宝をいかにして現代生活に生かすか、その具体的方途実現のため精進する。
- 一、われわれは、日本仏教徒の総力を結集し、来るべき第十二回世界仏教徒会議の成功を期する。
- 一、われわれは、恐るべき科学兵器の即時廃絶を世界人類の良心にうったえ

仏教は生活の最高指導原理

宣言

石油ショックを契機として物質万能の夢は破れ、巷には「心のもちかたを変えねばならぬ」との声が流れはじめて既に久しい。しかしその精神的転換をいかにして具現するかについては、未だ暗中模索しているというのがその実態である。

省みれば過去百年、われわれは文明についての正しい認識を見失っていた。たとえば、学術の研究は人類の福祉と文化創造という目的のための手段として、そ

続ける。

一、われわれは、青少年の自殺など生命軽視の風潮に鑑み、生命尊重の具体的運動を展開する。

一、われわれ仏教婦人は、仏教による女性の正しい道を鮮明にし、混迷せる家庭生活に光を掲げるよう精進する。

一、われわれ仏教青年は、若き勇猛心を揮って、仏教を現代社会に生かす菩薩道の実践に邁進する。

右決議する。

昭和五十二年十月七日

第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会

の価値を有すべきにかかわらず、自然科学の進歩はかえって人類破滅への兇器的存在となり、社会科学の発達もまた、人間に黄金の仮面を冠らせてエコノミック・アニマルという動物的次元へと退化させ、いわゆる精神の倒懸状態を出現せしめたのである。また人間形成の教育の場にあつては、教育体系は乱れ、一部にはイデオロギー培養の温床となり「学校盛んにして教育亡ぶ」とまでいわしめる現状となった。さらに社会一般においては、金力、権力、暴力という人間煩惱が大手を振って横行する世相が出現した。

今夏、福田首相は東南アジア各国歴訪に際し、マニラ声明を發したが、その一節に「真の友人として心と心の触れ合う相互信頼関係を築く」とある。しかし、今日のこの精神的風土をそのままにして、いかに如き国際的信頼関係が果して可能であろうか。

日本仏教は千四百年、生活に教育に文化に、常にわが国歴史形成の指導原理となつて輝かしい実績を積み重ねてきた。しかし明治以来の行政は、仏教の真面目を發揮することを許さない面が多々あつた。われわれ仏教徒は、その事情がいかにあろうとも、そこに人類の苦悩が存在する限り、力を合わせて救済に立ち向わねばならない。さらに、来るべき時代における指導原理もまた仏教を以てほかに

にないと確信する。

明年十月には、日本において第十二回世界仏教徒会議が開催される。今日の国際情勢に鑑み、日本仏教徒は総力を結集し、仏教を通じて真に心と心の触れ合う国際親善の樹立に貢献しなければならぬ。

われわれは茲に「仏教を現代に生かそう」のスローガンのもと、生命尊嚴の教法に基づいて空論を排し、新しい時代の要請に応え、創意をめぐらし、仏教が最高の指導原理として国民生活の隅々にまで脈うつよう努力精進することを誓うものである。

昭和五十二年十月七日

第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会

にぎやかに記念行事

仏教幼児画展や
文書伝道資料展

埼玉大会を盛り上げるべき記念行事は既報（十月号）のとおり現代名僧墨蹟展が盛況裡に終了、一方埼玉県内各地で仏教徒大会が開催された。また大会当日には文書伝道資料展、仏教幼児画展が埼玉会館で行なわれた。

（文書伝道資料展）三重大会での採択にもとずき、初めて文書伝道資料展が実施された。資料展は大ホールホワイエに各仏教会機関紙、寺だより、寺報が展示され、これには業界三紙からも賞が用意



初めて開かれた文書伝道資料展

昭和52年11月1日

された。

(仏教幼児画展) 仏教保育への理解と関心を高めようと



めようと
いう企画
で開催さ
れ、第二
展示室に
埼玉県内
の建福寺
幼稚園、
厚徳幼稚
園、和光
保育園な
ど二十五

園の幼児より四百点の絵画が展示され
た。【写真は仏教幼児画展】

県仏代表者会議

十九都府県の 四十名が参集

第二十五回全仏埼玉大会前日の十月六日午後一時より、浦和市の埼玉会館会議室に、十九都府県仏、四十名の代表と、全仏事務局、埼玉県仏役員が参集し、都道府県仏代表者会議が開催された。

会議は東京都仏・金子日威会長の三編依文唱和のあと、全仏・鐮瀨事務総長が挨拶、自己紹介とつづき、座長に神奈川県仏・貝山宣泰会長を選出して議事に入り、熱心な意見が出された。

第一議案「都道府県単位における仏教

埼玉会館で開かれた県仏代表者会議



会の活動をより伸展するための方策について」

仏教会の発展ということについては、「組織の強化が第一である」・「伸展させる根本は資金確保である」などの意見がだされ、これらを実現させるためには

仏教青年は何をなすべきか

全日仏青埼玉結集ひらく

新生の全日本仏教青年会(全日仏青)

は本年一月に平原隆秀師を理事長に再発足し、組織化をすすめる一方、その活動も活発に行っている。特に組織強化を重視して推進、全日仏青加盟団体は十九

より研究を重ねることとなった。

第二議案「第十二回世界仏教徒会議日本大会について」

この実行については、仏教徒一人一人の責任においてやらねば立派な成果を挙げえない。総力をあげて協力するとの申し合せをした。

都道府県仏代表者会議決議文

一、各都道府県仏教会は、その活動を伸展させるため、組織強化、協同目標の設定、資金源の確保に努力する。

二、各都道府県仏教会は、第十二回世界仏教徒会議の意義と、自からの責務の重大さを自覚し、広報、勧募等、物心両面において、仏教徒の総力を結集するため本会議において合意をえた具体的方策をただちに実施する。

会議はこの他に各県仏の事業報告、事業計画や諸問題などについて話し合われ閉会後なごやかに懇親会が開かれた。

【出席県仏】栃木 兵庫、長野、群馬

千葉、茨城、京都 神奈川、徳島、青森
大阪、岡山、岐阜 三重、東京、山形、
香川、岩手、埼玉

団体と着実な伸展をみせている。

それらの成果をふまえて、全仏埼玉大会の前日、十月六日午後一時より、浦和市・浦和プラザホテルを会場に、代表者百五十名余が参集して、「第一回全日本

仏教青年・埼玉結集」が開催された。

結集は「現代社会に仏教青年は何をなすべきか」のテーマのもとで開かれ、開会式のあと、東洋大・金岡秀友教授がテ

ーマにそって基調講演を行い、仏教青年としての自覚と現代社会にたいする仏教の使命などを基に、仏教青年の役割を提示した。次に意見発表が、長野県仏教青年連盟(宮本純雄師)、神奈川仏教青年同友会(本間孝康師)、全国浄土宗青年会(江口定信師)、全国日蓮宗青年会(能登海正師)より行われ、それぞれの組織・運営・活動などの発表があった。意見交換では、仏青活動の現状と今後のあり方等について活発な意見がだされ、より仏教青年を組織すべく、宗派・地域を超えて努力することが話しあわれた。

また明年の第十二回WFB日本大会にあわせて予定される世界仏教青年会(WFBY)の総会等にも積極的に取りくん

でいこうとの意見がだされ了承された。
なお、全日仏青では金沢市仏教青年会と長野県仏教青年会の正式加盟により左記の十九団体が加盟となった。

神奈川県仏教青年同友会、大阪府仏教青年会、神戸仏教青年連合会、山形県仏教青年会、金沢市仏教青年会、東京仏教青年会、茨城県仏教青年会、東京ブディストクラブ、神戸J.B、長野県仏教青年会、埼玉県仏教青年会、本願寺派仏教青年連合会、高野山真言宗青年会、智山青年連合会、天台宗仏教青年連盟、全国日蓮宗青年会、真言宗豊山派仏教青年会、全国浄土宗青年会、曹洞宗青年会。

全仏常務理事会開く

四議案について審議

全日本仏教会の常務理事会は、十月一日午前十時より、東京本願寺遠忌記念館において開催。田辺理事長挨拶のあと、議事録署名委員に熊野竜夫、桜井大乗師を選出、左記の議事について審議された。

議案第一号「人事異動について」

事務局上提原案通り、理事、評議員、関西事務局等の人事を承認。(別掲)

議案第二号「宗派加盟申請について」

かねてより申請のあった真言宗犬鳴派の加盟について、推薦者の国分寺派・西口公教管長より挨拶のあと、審議され万場一致で承認。(別掲参照)

議案第三号「退会届について」

退会届のなされていた国際仏教伝道会(桜井栄章会長)については、やむえなとして受理承認。

議案第四号「次期役員改選について」

明年のWFB大会をひかえ、理事長以下大会円成のため、実質的に二年延長する方向で了承。

報告事項1「全仏埼玉大会について」

担当部長より、日程、議案、参加者数など報告。

報告事項2「WFB大会について」

事務総局長より、参加国別申込人数、業者選定などについて報告。

全第3種郵便物認可

人事異動 全仏

全日本仏教会では次のような人事異動が常務理事会で承認された。(上段は新任、下段は退任)

- 常務理事 後藤純一 江西寛堂 妙心寺
- 理事 佐藤正道 町田宗夫 曹洞宗
- 堀 定雄 藤音晃祐 本派
- 評議員 五葉正道 越智憲英 愛媛県
- 大山仙遊 赤平昌導 青森県
- 米田淳雄 緋川聖士 島根県
- 高田清一 町田宗夫 曹洞宗
- 南沢道人 大竹明彦 //
- 小泉宗和 北島経昭 本派

WFB実行委人事

△新任▽総務1 畑直孝、鈴木徹衆、記念事業1 北川有光、市村承乗、勸募2 大森弘道、勸募3 鶴峰正永、篤地一隆

井上文克、経理1 多賀谷崇峰、渉外1 島正男、式典1 橋高智雄、池月孝文、小沢照禱、会議1 関岡賢一、高橋勇首、渡辺直行、接待1 島崎義雄、三輪照宗、岩崎宗秀、小泉顕哲、土屋孝喜、勸募3 横井鶴洲、立部瑞祐、西野秀映

△移動▽勸募2 総務・井村胤広、会議▽総務・小宮勝憲

△辞任▽勸募3 服部広正、会議 後藤純一

渡辺静波 藤前東時
藤本竜珠 榎藤明哲
土屋孝喜 梶田泰賢 妙心寺
萩松完道 竹中文鼎
高橋勇首 江西寛堂
熊谷隆正 土館馨文 岩手県
平原隆秀 増田貞円 全仏青
千坂精道 後藤純一 国際部
小沢照禱 斎 隆套 総務部
伊藤宣道 長谷鎮也 主事

真言宗犬鳴派が

全仏に加盟

かねてより加盟申請の出されていた真言宗犬鳴派は、常務理事会でその加盟が承認され、正式に全日本仏教会に加盟と

真言宗犬鳴派

なった。犬鳴派の概要は左記の通り。

- 宗務所 大阪府泉佐野市大木八番地
- 管 長 東条仁進
- 宗務長 帯盛電応
- 大本山 七宝灌寺
- 包括寺院数 寺院教会72 布教所97

WFB日本大会

総務委員会

WFB日本大会実行委員会の総務委員会が、九月二十七日午前十時より、全仏会議室で開かれ、白川委員長挨拶のあと桜井委員を座長に議事に入った。

- ① 旅行者者、会議業者選定について 日本交通公社、I・S・S が検討の結果として選定したい旨報告。
- ② 日程変更について

歓迎大会場(国立劇場)の都合で、歓迎大会を十月三日に実施したいと報告。歓迎大会は重要なので、充分検討し次期委員会に諮る。

③その他

開会式場の築地本願寺は一千名収容なので招待者・内容充分検討する。レセプションについては東仏側とよく打ち合わせる。分科会出席者についても会議委員会と検討を重ねる。

ブーン会長が病気

サンヤ副会長が代行

WFB会長のブーン・ピスマイ・ディスクール殿下は、脳血栓のため当分のあいだ休養が必要となった。このため副会長のサンヤ・ダルマシヤクティ閣下(元首相)が会長代行として職務を執る。

大阪府仏教徒会議

第十五回大阪府仏教徒会議が九月二十七日午後四時より、南御堂難波別院において、大阪府仏教会（西口公教会長）の主催で開かれた。

戦没者三十三回忌法要厳修のあと、西口会長が挨拶。つづいて東大名誉教授・中村元博士が「釈尊の生涯」と題して一時間に亘って講演を行なった。総会では「地域社会に奉仕しよう」とのテーマにもとづいて意見発表等が活発に行なわれ「非常災害時の寺院開放対策を積極的に推進する」などの決議をした。

黒い法要追放でも大阪府仏が早くから決議実践して、全国的運動へと広めた

昭和53年版

「全仏手帳」

申し込み受け付け中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行致します。部数に限りがございますので、御注文はお早め。

内容 三掃依文、四弘誓願、宗門聖口、加盟団体役員住所録
忌日早見表、その他

サイズ 9×14cm
定価 五〇〇円（送料実費）

出来日 十一月初旬
申込先 東京都台東区西浅草一―五
一五（十一―一） 全仏総務局宛

けに、災害時の寺院開放の決議は、今後の研究ならびにその効果に期待するとともに各県仏が注視すべき点である。それだけにアンケートのまとめを注目してみたい。

総持寺で入退式礼

曹洞宗大本山総持寺では、十月十五日午前十一時より、引退を決議された岩本勝俊禪師の退置式礼、二十一日午前十一時より乙川璋映新貫首の入山式礼が挙行された。

退置式礼は拈香法語、普同三拜、大悲咒真誦、回向、お別れの言葉があったあと紫雲台を出られ、各宗派管長等とお別れをし、三門頭にて乙川新貫首と惜別の握手という感激的な岩本貫首の退山であった。

一方入山式礼は、乙川新貫首の三頭門到着にはじまり、大祖堂にて祝禱諷經、般若心經、回向、普同三拜、相見のお拝とつづいた。なお普山式は明年四月が予定されている。

掲示板

栃木県仏人事

▼栃木県仏教会では役員改選により、次のように新役員が決定しました。

会長・柴田昌源、副会長・鱈淵正浩、
塚田賢照、理事長・稲木宏済、事務局長
高木敏了（事務局―宇都宮市南大通り
一〇の四の二十七 応願寺内）

南禅寺派人事

▼桜井景雄宗務総長の任期満了に伴い、新しく松浦勝道師が選出された。

宗務総長・松浦勝道、法務部長・武田文英、庶務部長・小森慶晃、財務部長・酒井恵照、教学部長・笠井昭道

杜多主事が結婚

▼全仏事務総局の組織部・杜多茂夫主事は十月七日めでたく結婚しました。WF B日本大会にむかって二人で頑張ってもらいます。オメデトウ！

事務局録事（10月）

- 一日 常務理事会 埼玉大会幹事会（埼玉）
- 六日 都道府県仏教会代表者会議 全日仏青埼玉結集（埼玉）
- 七日 第二十五回全仏埼玉大会
- 十五日 総持寺退置式礼参列
- 十七日 妙心寺派訪米団見送り
- 十八日 仁和寺門跡晋山式出席
- 二十日 局内会議
- 二十四日 関西事務局と打ち合せ
- 二十五日 四国ブロック会議（高知）

WFB事務局録事（10月）

- 三日 仏教英語研究会
- 十三日 //
- 十七日 //
- 二十日 局内会議
- 二十七日 仏教英語研究会

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿 2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表 (841) 4965

経本製本専門

一英堂製本所

島田 育英

小口寸法一寸五厘より、天金物その他御注文より製本お請致します。

東京都板橋区赤塚 4-29-17
〒175 でんわ03 (938) 3806

昭和52年11月1日

昭和五十二年十一月一日発行
十一月号 第一二三号

発行人 鱈淵正浩
編集人 来馬規雄

発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五（東京本願寺内）
電話 〇三（八四三）六三四一、三